

平成22年度

橋梁技術発表会及び講演会

-安全・安心な鋼橋-

参加費無料
定員200名
申込先着順

平成22年

日時 **11/5** (金) **13:10~17:35**

会場 **仙台国際センター2F 萩**

〒980-0856 仙台市青葉区青葉山無番地
Tel.022-265-2211

13:10~13:20 **開会の辞**

社団法人日本橋梁建設協会
副会長・専務理事 中島 威夫

13:20~13:35 **橋建協レポート**

こんなにもある鋼橋のすばらしさ!!
需要創造特別委員会

第1部:技術発表会

13:35~14:20

1.鋼構造物試験体の
耐久性確認試験に関する報告
—腐食環境の厳しい場所(沖縄地区)において—
技術委員会製作小委員会 大庭 哲也

14:20~15:05

2.鋼・コンクリート合成床版の実橋調査
—鎧橋の載荷実験と非破壊検査—
技術委員会床版小委員会 春日井 俊博

15:05~15:50

3.上路アーチ橋の補修および
耐震補強工事報告
—主要国道の規制をとまなう大規模工事の調査から施工—
保全委員会保全技術小委員会 小深田 祥法

15:50~16:00

休憩

第2部:特別講演会

16:00~16:30

1.環境に優しい社会を支える建設用鋼材
社団法人 日本鉄鋼連盟 建設環境研究会
橋梁用鋼材研究会

16:30~17:30

2.応急橋の現状と軽量展開橋の
開発について

東北学院大学 工学部
環境建設工学科
教授 中沢 正利



17:30~17:35

閉会の辞

橋梁技術発表会実行委員会

申込方法

- ①Fax. 022-262-4855(裏面の用紙に記載)
- ②ホームページ(URL) <http://www.jasbc.or.jp/>
の「技術発表会申し込み受付」まで(受付は9月上旬から)

申込期限 **平成22年10月22日(金)**

懇親会 仙台国際センター1階「ラ・フォーレ」にて
17時50分から開催します。

会費 **1,000円**

参加ご希望の方は、発表会当日受付にてお申し込みください。

連絡先

社団法人 日本橋梁建設協会 東北事務所
〒980-0014仙台市青葉区本町1-11-11 仙台グリーンプレイス
Tel. 022-262-4855

継続教育 CPDS認定予定

- ※東京地区は 10月13日(水) (特別講演講師:東京大学 小澤教授)
 - 大阪地区は 10月29日(金) (特別講演講師:大阪工業大学 栗田教授)
 - 中部地区は 11月11日(木) (特別講演講師:名城大学 宇佐美教授)
 - 九州地区は 11月24日(水) (特別講演講師:長崎大学 中村教授)開催です。
- 申し込み等詳細はホームページでご確認願います。

発表原稿のPPTはホームページに掲載しますので、ご希望のかたは
ダウンロードするをお願いします。

アクセス



●仙台駅西口バスプール9番乗り場より「仙台国際センター」行き、
「博物館国際センター前」下車(バス移動約10分、徒歩約1分)
710(宮教大・青葉台)、713(宮教大・成田山)、715(宮教大)、
719「動物公園循環(青葉通・工学部経由)」、720「交通公園・川内営業所」
のいずれかにお乗りください。

※会場内にH21高校生「橋梁模型」作品発表会受賞作品の写真を展示

1 鋼構造物試験体の耐久性確認試験に関する報告

— 腐食環境の厳しい場所(沖縄地区)において —

鋼構造物における維持管理コストを低減することを目的として、(社)日本橋梁建設協会では、(独)土木研究所と防食方法の耐久性に関する共同研究を行ってきている。塗装系では平成3年4月から、金属溶射皮膜では、平成14年6月から、それぞれの防食方法における耐久性の検証を目的として、大型試験桁および試験板を設置して暴露試験を開始し、継続的な観察を行ってきている。本報告は、塗装系に関しては15年経過の総括、金属溶射に関しては7年経過の途中報告を行うものである。

2 鋼・コンクリート合成床版の実橋調査

— 鉄橋の載荷実験と非破壊検査 —

橋建協では、合成床版の健全度評価方法として、床版たわみで劣化度を判定する方法を検討しています。RC床版では、衝撃加振によるたわみ計測方法が東京都土木研究所で開発されていますが、これを合成床版に適用することを検討しました。東京都の鉄橋を対象として、衝撃加振によるたわみ計測と荷重車を用いた静的載荷実験およびその評価、各種非破壊検査を実施した結果を紹介します。

3 上路アーチ橋の補修および耐震補強工事報告

— 主要国道の規制をとまなう大規模工事の調査から施工 —

本橋は、建設後50年が経過した鋼上路アーチ橋で、定期点検の結果、アーチ端支柱のフランジ基部に損傷が発見され緊急対策補強工事が実施されました。本工事は、こうした緊急性を有する損傷箇所を現場調査によって確認し、施工を考慮した設計を行いながら補修工事を実施した事例です。また耐震補強では、現行耐震設計基準を満足させるため、油圧式ダンパーおよび座屈拘束ブレースなどの制震技術を採用して補強を行っています。ここでは、主要国道の規制をとまなう補修工事の調査から施工までの一連の内容を中心に紹介します。

特別講演会

1 環境に優しい社会を支える建設用鋼材

社団法人 日本鉄鋼連盟 建設環境研究会
橋梁用鋼材研究会

鉄は私たちの生活に密着し、特に建設分野では日本の国内向け普通鋼の約半分が使われ、現代社会のインフラストラクチャーを支えています。

今日まで、私たちは建設用鋼材の製造段階から使用段階に至るまで、環境に優しい建設を可能とすべく様々な工夫と取組を実施してきており、本発表では、これらの取組内容と共に環境配慮型の各種建設用鋼材の特徴について報告致します。

特別講演会 講演者紹介

2 応急橋の現状と軽量展開橋の開発について 中沢 正利

東北学院大学
工学部 環境建設工学科 教授

— 略歴 —

昭和33年11月 青森県生まれ
昭和57年 3月 新潟大学工学部土木工学科卒業
昭和59年 3月 東北大学大学院工学研究科
土木工学専攻博士前期課程修了
昭和62年 3月 東北大学大学院工学研究科
土木工学専攻博士課程単位取得後退学
昭和62年 4月 東北大学工学部助手に採用
平成元年12月 工学博士の学位取得(東北大学)
平成 6年 1月 東北大学工学部講師に昇任
平成 8年 8月 東北大学工学部助教授に昇任
平成11年 4月 東北学院大学工学部土木工学科
助教授に採用
平成14年 4月 東北学院大学工学部土木工学科教授
に昇任
平成19年 9月 英国ラフバラ大学在外研究員
平成20年 8月

— 専門分野 —

構造解析学
応用学
— 学外活動(研究) —
平成 21年 4月 国土交通省宮城ブロック総合
評価委員会委員
平成 21年 4月 土木学会応用力学委員会委員
平成 21年 6月 土木学会鋼構造委員会委員
平成 21年 11月 国土交通省東北地方橋梁保全
検討委員会委員

— 所属団体 —

(社)土木学会
(社)日本鋼橋協会
(社)日本計算工学会

講演概要

豪雨によって中小河川が氾濫し、生活道路に架けられた橋梁が落橋・流出して山間部の集落が孤立する事例は数多い。このような場合、災害復旧の一手段である応急橋の設置には比較的長時間を要するのが現状である。例えば、国土交通省の応急橋(ポニーワーレントラス40m)ではトラッククレーンを用いて40時間以上を要し、トラックの走行を前提とした25トン対応である。陸上自衛隊の81式自走架柱橋は一支間10mで60mまで延長可能だが、軍事車両を想定しており、やはり架設は迅速ではない。災害復旧のための重車両を想定する前に、緊急避難や人命救助のための緊急交通路確保も考慮されるべきであろう。そこで、災害発生のおと短時間で臨時交通路の確保およびバイクなど軽車両の走行のみを可能とする軽量の応急展開橋の存在価値が出てくる。ここでは、応急橋の現状を概観し、軽量で応急展開可能な橋梁形式の開発について報告する。

FAX番号:022-262-4855

平成22年度

橋梁技術発表会 [東北地区]

参加申込書

所 属	団体名	所属
氏 名	役職	氏名
住 所	〒	
電話番号	FAX番号	
E-mail		

前回参加の有無 有 ・ 無